平成26年度土砂災害防止　作文　【 香川県知事賞 】

「土砂災害を防ぐには」

さぬき市立造田小学校　５年　林　大貴さん

今、ぼくは、徳島大学病院の病室の窓から、山をながめています。台風の接近で昨日から大雨こう水けい報が出ていて、外は雨で真っ白です。山をながめながら、もし、あの山の土砂がくずれ落ちてきたら、どうなるだろうと思いました。山のふもとには、たくさんの家があります。ぼくは、とてもこわくなりました。

五年生になってすぐに、社会科の授業で、「日本は、国土の七十パーセントが山地である。」と、習いました。日本は、いつどこで、土砂災害が起きても不思議ではありません。

先月も、大雨で山がくずれて、長野県の家族が家ごと土砂に流されて、子どもが一人、亡くなったと新聞にのっていました。どんなにか、こわかっただろうと思います。

大量に雨がふって、たえきれなくなった山が、地すべりを起こして、木が土砂といっしょに土石流となって、家や人を押し流したり、道路をふさいでしまう土砂災害。お母さんに聞くと、昔にくらべて、土砂災害のニュースをテレビでよく見るようになったそうです。昔よりも、雨がよくふるようになってきたのでしょうか。それとも、山や森が変わってきたのでしょうか。不思議に思ったぼくは、お母さんに聞いてみました。

すると、お母さんは、

「お母さんがおよめに来てすぐに、家のうら山に、杉やひのきの木を、何十本も植えたことがあったけれど、そのころは、ご近所みなが山に来て、畑の手入れをしたり、山の管理をしていたの。でも今は、あれてしまって、山は変わってしまったわ。日本中の山が変わったのだとしたら、土砂災害が多くなったことと関係があるかもしれないね。」

と、言いました。

ぼくは、お父さんにも聞いてみました。すると、お父さんも、

「お父さんの子どもの時には、自分ちの山に入って登ったりしていたけれど、今はもう、サルやイノシシが増えたから、あぶなくて入れないよ。自然が変わってしまったのは確かだね。山というのはね、ダムの役目をしているんだよ。ふった雨水をたくさんたくわえてくれている。強く根をはった木が、大切な役割をはたしているんだ。でも、一度に大量の雨がふったり、長い時間ふり続くと、山もげんかいをこえてしまって、くずれてしまうんだ。地球温だん化のせいで、昔とは気候も変わったから、森だけでなく、自然全体が変わってしまったのかもしれないね。」

と言いました。

お父さんの話を聞いて、ぼくは悲しくなりました。どうしたら土砂災害を防ぐことができるんだろう。むずかしくて、考えてもわかりません。そんなぼくの顔を見て、お母さんが言いました。

「人間は自然には勝てないけれど、仲よくすることはできると思うの。大雨の時は、いつもとちがう水の流れや、地面のきれつや落石、地鳴りのような音がしないか、周りをよく注意すること。そして、土砂災害けいかい情報が出たら、早めに安全な場所にひなんすること。命を守ることが、一番大切だからね。」

ぼくは、お母さんの話を聞いて、このくらいの雨なら大丈夫と思わず、用心しなければいけないと感じました。

ぼく達が、ふだんからできることは、土砂災害が起こりそうな場所をきちんと知っておくことと、もしもの時に、すぐにひなんできるように持ち出す物をじゅんびしておくことです。「そなえあればうれいなし」です。

あと、ぼくは、お母さんのふるさとや、病院に行く時に、よく高速道路を通りますが、雨の日に、山の中を車で走っていると、こわいと思うことがあるので、高速道路を管理している人達に、しっかりと安全点検をお願いしたいと思います。